

D 149 袖山基本原型の身頃袖付け線について
和洋女短大家政 ○吉原頼子
東京理大工 蟹江 壽

目的 体型特徴を織り込んだ袖山基本原型の作り方について、立体構成法により4種のパターンを作り、それらを基に袖の試作をした結果、袖山の曲面をつくるための間隙（ダーツ）を袖山部分と袖幅部分に分散させたパターンⅡが適していることはすでに報告した。今回は、身頃基本原型の袖付け線と袖山基本原型の設計法について報告する。

方法 身頃袖付け線を次の6通りに設定した。1)はS.P. (肩先点) ~前腋点~A.H.L.最深位点と脇線の交点~後腋点~S.P.で、先に用いた袖付け線である。2)は1)で決めた肩先的位置で10mm袖側へ移動した。3)は20mm、4)は30mm、5)は40mm、6)は50mmに決め移動し、その点を通る滑らかな袖付け線を描いた。それぞれの身頃の袖付け線の移動に対応した袖山曲線の決め方について、実際に袖の試作をして、袖山の基本原型として妥当な設計法について検討を加える。

結果 パターンⅡをつくった時と同じ方針で袖山部分の平面展開を行うと、この6種の袖付け線に対する袖山曲線のうち、2)の袖付け線に適合する袖山曲線は、袖山の高さ、袖幅、袖山曲線の長さ、およびいせ込み量が従来の平面製図によるものと近くなることがわかった。